

博物館職員が自主制作

郷土博物館の企画展を動画で紹介します

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、杉並区立郷土博物館及び分館は臨時休館しています。再開時期の見通しがつかない中、公開予定だった企画展を自宅などから楽しんでもらおうと、博物館職員が紹介動画を制作しました。

動画は、本日から YouTube 杉並区公式チャンネルで公開します。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、杉並区内でも区立施設の臨時休業やイベントの中止が続いています。杉並区の歴史や文化を紹介する企画展を定期的で開催している杉並区立郷土博物館（大宮 1-20-8）、郷土博物館分館（天沼 3-23-1）についても同様に休館となっており、今後も開催中の企画展を公開できない状況が続くことが想定されます。そこで動画を活用し、自宅などから安全に展示を楽しんでもらおうと、博物館職員の手による動画制作がスタートしました。

台本作成から、撮影・編集まで博物館館長が担当し、各展示の映像とともに、学芸員が解説を加えています。塚原館長は「いずれの企画展にも、地域の学校や寺社、個人の方からお借りした貴重な資料を展示しており、展示を楽しみにしてくださっていた皆さまからのお問合せもいただいていた。このビデオは、展示を担当した学芸員が中心になって手作りしたもので、展示の見どころがわかりやすくまとめられています。博物館の職員も、臨時休館が終わって、皆さんとお会いできることを楽しみにしています。」と話しています。

制作した動画は、本日から YouTube 杉並区公式チャンネルで公開します。

郷土博物館 企画展

「すぎなみの地域史3 井荻」



杉並区内に存在した旧4カ町域の歴史と文化について扱うシリーズ企画です。今回紹介するのは、第3弾の「井荻町域」です。歴史は、ここで発掘された縄文土器に始まり、鎌倉時代の頼朝伝説、大正から昭和にかけての区画整理、戦中の中島飛行機、戦後のプリンス自動車、そして井荻地域に住んだ文化人、開高健、井伏鱒二、与謝野晶子、田河水泡などを紹介します。

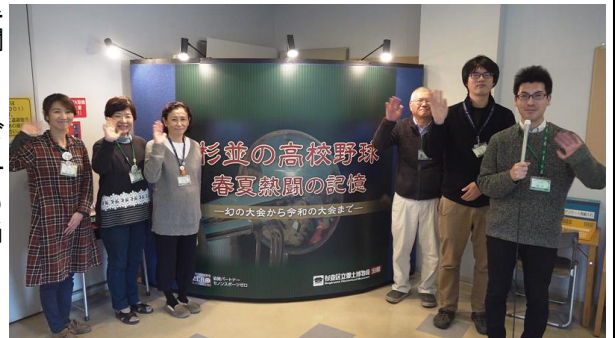


郷土博物館分館 企画展

「杉並の高校野球 春夏熱闘の記憶 幻の大会から令和の大会まで」



令和元年の夏に國學院久我山高校が第101回全国高校野球選手権大会に出場したことをはじめ、杉並区内では、日本大学第二高校、佼成学園高校、日本大学鶴ヶ丘高校も甲子園（選抜大会含む）に出場しています。また、専修大学附属高校の前身である京王商業学校が、昭和17年に戦局の悪化により中止となった選手権大会に代わり開催された「幻の甲子園」と呼ばれる大会に南関東代表として出場しています。甲子園に出場した区内高校の熱闘の記憶を振り返るとともに、知られざる「幻の甲子園」大会にもスポットを当てていきます。



【問い合わせ先】

杉並区立郷土博物館：03-3317-0841

総務部広報課：03-3312-2111（代表）